

こんしゅう ちゅう ぜい じん
今週のことば「**徴税人**」

せいしょ ふくいんし
《聖書》ルカによる福音書 19:1-10

つみ
罪

ひと つみ おか おか
ある人が罪を犯しているか犯していな
はんだん と き き そく まも まも
いかを判断する時に、規則を守ったか守
はんだん きじゅん
らなかったかが判断の基準にされます。
き そく まも つみ おか
規則さえ守っていれば罪を犯してないと
みなされます。

き そく まも まも
しかし、規則を守ったか守らなかった
じ ぶん
かだけでなく、自分のやるべきことをす
はんせい てん
すんでやらなかったことも、反省すべき点
み つみ おか
として見なければなりません。罪を犯さ
ないようというので、どんなことに
たい せっきよくてき と く
対しても積極的に取り組んでいこうとし
はんせい てん
ないことも反省すべき点です。

じ ぶん
さらに、自分さえよければいいという
ひと かんが じ ぶん り
ことで、人のことを考えずに、自分の利
えき じっこう
益になることしか実行しなければ、それ
つみ わる
も罪になります。悪いことさえしなけれ
かんが じ ぶん かんが
ばいいという考えは、自分のことしか考
にんげん つく にんげん たが どう
えられない人間を作り、人間がお互い同
し たす あ たいせつ わす
士助け合っていくことの大切さを忘れて
き けん いちばん
しまう危険があります。これこそ一番さ
つみ
げなければいけない罪ではないでしょ

か。

ちゅう ぜい じん
徴税人

ちゅうぜいじん じん かわ じん
徴税人は、ローマ人に代ってユダヤ人
ぜいぎん と し ごと
から税金を取る仕事をしていました。そ
い ほうじん つか もの
のために、異邦人に仕えている者として
つみびと
罪人とみなされ、みんなからのけものに
ちゅうぜいじん
されていました。イエスが徴税人ザアカ
いえ と ちゅうぜいじん
イの家に泊まったことで、徴税人たちは
ちゅうぜいじん せい
なぐさめられました。徴税人たちは生
かつ し ごと
活のために仕事をしていますが、その
つみびと
ためにみんなから罪人とみなされ、うし
き も せいかつ
ろめたい気持ちでいつも生活していたか
らです。

ひ はん ひと じ ぶん
イエスを批判していた人たちは、自分
ただ にんげん かんが こころ
は正しい人間であって、神の心になっ
もの かんが りっぼう
た者と考えていました。そして、律法の
きてい まも りゆう びょうにん
規定を守らないという理由で、病人や、
まず ひと ちゅうぜいじん み くだ
貧しい人たちや、徴税人たちを見下して
よわ ひと さ べつ ひと
いました。弱い人や、差別されている人
たちば た つね かんが じ ぶん せいかつ
の立場に立って常に考え、自分の生活を
はんせい じ ぶん よわ き しん
反省しながら、自分の弱さに気づいて真
けん い たいせつ
剣に生きることが大切なのです。

ねんかんだい しゅじつ ねん たきの
年間第31主日C年（滝野）